

保連とくしま

2023年
No.89

令和5年10月1日発行

発行所 〒770-0943 徳島市中昭和町1丁目2 県立総合福祉センター内 徳島県保育事業連合会 電話 (088) 654-4461(代)

その子らしく！のびのび育つ環境づくり ～一人ひとりを大切に、様々な体験を通して主体性を育む～

徳島市 南井上にじいろ認定こども園

今注目の
“保育”紹介



当園は徳島市西部に位置し、市街地に近いながらも、周辺には田や畑が一面に広がっています。阿波史跡公園もあり多くの文化財や歴史的遺産があり、文化の香りが高い地域であるとともに自然環境にも恵まれています。

令和5年4月に、定員移管に伴う整備・運営を社会福祉法人島田会が担うこととなり「南井上にじいろ認定こども園」が開園しました。法人のキャッチフレーズ「笑顔の数だけ夢がある」をモットーに現在0歳児から5歳児まで計95名が毎日、きらきらとした笑顔で楽しく生活しています。徳島県産の杉をふんだんに使用し、保育室には丸太1本そのまま使用しています。広々

とした平屋の園舎の中で木のぬくもりを五感で感じながら子どもたち一人一人に丁寧に関わり愛情をもって教育・保育を行っています。

開園して日も浅く落ち着かない日々ではありますが、子どもが主体的にいそいそと遊び学べる場を提供できる環境づくりを模索しながら職員間の連携を密にし頑張っています。遊びを通して、自分で考える、工夫する、失敗や成功を体験し、自立していく力を身に付けてほしいと考えています。

園長 廣谷 真由



御挨拶

徳島県未来創生文化部こども未来局

こどもまんなか政策課長 **大井 文恵**

徳島県保育事業連合会の皆様には、日頃より、本県の児童福祉行政、とりわけ保育行政の推進に多大な御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、全国の出生数は80万人を割り込み、過去最少を更新し、今後更に少子化が加速することが懸念されています。

また、全国の待機児童数は受け皿拡大や就学前人口の減少等から、減少傾向にあります。

一方で、昨今、幼児教育・保育の現場でのこどもをめぐる事故や不適切な保育の対応事案などが増加しており、安心してこどもを預けられる体制整備が求められています。

保育の第一線で御活躍される皆様におかれましては、日々、こどもたちの安全確保に御尽力いただいておりますことに改めて深く感謝を申し上げますとともに、引き続き、安全・安心な保育の実現に御理解・御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

本年4月、国では「こども家庭庁」が創設され、本県においても、6月に「こども未来局」を設置し、「こども家庭庁」のカウンターパートとして、「こども関連施策の拡充」を推進するため、担当職員を増員し、組織体制の強化を図ったところです。

また、「子育て支援」においては、第3子以降の保育料や放課後児童クラブ利用料の無料化などの支援強化を図り、子育てしやすい環境づくりを推進するとともに、保育人材確保や保育の質向上にも積極的に取り組んでいるところです。

こうした中、国においては、少子化対策の強化に向けて、「こども未来戦略方針」を去る6月13日に閣議決定し、今後3年間で集中取組期間として、「加速化プラン」に取り組むとされています。

同プランでは、子育て支援について、「量の拡大」から「質の向上」へと政策の重点を移すこととし、幼児教育・保育の質の向上として、75年ぶりの職員配置基準改善と更なる処遇改善が掲げられています。

県におきましても、これまで「徳島ならでは」の保育サービスの実践など市町村の主体的な取組を支援する交付金事業の推進に加え、「保育士・保育所支援センター」の機能充実によりまして、保育人材の確保などの取組を進めてまいりました。

今後、国の動向を注視しながら、市町村との緊密な連携の下、保育人材の育成やスキルアップに取り組むとともに、こども・子育てを取り巻く多様な課題に積極的に取り組み、「安心してこどもを生み育てることができる徳島」の実現に向け、更なる努力を重ねてまいりたいと考えております。

こどもたちの成長過程において、乳幼児期は、心身の発達や生涯にわたる人格の形成にとって、極めて重要な時期と言われております。

こどもの健やかな育ちを支え、保護者の子育てを支えるなど、保育やその担い手となる「保育士・保育教諭」の役割には、児童福祉の専門家として、大きな期待が寄せられています。

徳島県保育事業連合会の皆様方におかれましては、「こどもの健やかな育ち」を実現するため、県の取組に対し、より一層の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりましたが、徳島県保育事業連合会の今後ますますの御発展と、皆様の御健勝と御活躍を祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

〈研修報告〉

6/16 徳島県保育事業連合会研修会
アスティとくしま

講演 「コロナのこれまでとこれから
私達の暮らしはどう変わり、これからどう変わっていくのか」
講師 大阪大学大学院医学系研究科感染制御学講座教授 忽那 賢志氏

研修は、人類が様々な感染症に苦しんできた実態や近年の新興・再興感染症にはどのようなものがあったのかということ再認識することから始まりました。

新型コロナウイルス感染症には、恐怖心を抱いてしまえますが、接触感染については、物からの感染を過剰に意識せず、正しい手洗いを行っていただければ予防できることを教えていただきました。

また、飛沫感染予防のためのマスク着用については、病院・高齢者施設の中では持病があり重症化しやすい方がいるので、マスク着用を引き続きお願いしたいとのことでした。

新型コロナが5類になったことによるワクチン接種の必要性については、ワクチンは重症化を防ぐ効果は保たれているので、高齢者、基礎疾患のある方々は半年に一度程度、それ以外の方々は1～2年に一度の接種で良いとのことでした。また、小児ワクチン（5歳～11歳）も重症化予防効果は長期間高く、副反応は

■報告者 川内保育所 喜多内 由美
少なく、安全性は高いとされているので検討して欲しいとお話がありました。

最後に、講師からは、「次のパンデミックに活かせるように、今回のコロナ禍における事業者ごとの対策を記録しておくことが求められている。体調が悪い時は休み、こまめな手洗い等の感染対策はこれからも続けて欲しい。コロナは終わったわけではないため、少なくとも、初回接種・追加接種まではして基本的な感染対策をして欲しい」との助言がありました。

コロナ禍では、どの選択をするべきか迷うことが多くありましたが、情報を整理し、自分たちの状況にあわせて、判断し対応することは、これからも大切だと思いました。

これまで取り組んできた感染症対策や保育のかたちを今後に活かし、引き続き健康に十分留意して保育をしていきたいと思いました。

7/13 令和5年度四国ブロック保育研究大会 愛媛県 県民文化会館

午前中は、全国保育協議会 副会長 伊藤唯道氏より「制度動向への対応について」全国保育士会 会長 村松幹子氏より「保育士会の活動について」の基調報告がありました。

記念講演は、東京大学名誉教授・汐見稔幸氏より「今、保育の中で大切にしたいこと」についてお話がありました。子どもの気持ちをしっかり聞くこと、子どもたちが試行錯誤しながら生活が出来るように環境を作ることの大切さを学びました。

午後からは、第1分科会に参加しました。徳島県勝浦こすもす保育園は、「お箸の日」や「マイ箸プロジェクト」に関する研究発表でした。0歳から指先や全身を使った遊びが必要なことやお箸の指導に適した月齢など実践を通じて気づき、保育の質が向上したという報告でした。

■報告者 あいずみ保育園 芳蔵 弘美

香川県柞田こども園は、気になる子や保護者との関わりについて取り組む中で保育観が変わり、何でも話し合える職員関係が大切で、保護者支援は難しさもあるが寄り添いながら信頼関係を深めていきたいという報告でした。

高知県五台山保育園は、保育者の資質を向上させるために、知識や技術、コミュニケーション能力を様々な方法で取り入れている研究発表でした。ストレスや過労にならないよう環境を整え、医療的ケア児を預かっていることが地元の新聞に取り上げられる等、園の魅力をSNSで発信しているという報告でした。

保育を振り返り考えることや職員が気持ちにゆとりをもつことが子どもへの関わり方などに繋がっていきます。働きやすい環境の中で子どもや職員が笑顔で過ごせることが大切であると改めて感じました。

8/9 管理職研修 あわぎんホール

講演 「組織マネジメント・職員理解と評価について」
講師 鳴門教育大学大学院幼児教育コース 教授 佐々木 晃氏

研修は三部に分かれ、組織運営のマネジメントと職員理解に関する内容であり、時折ユーモアを交えながら話す先生の話術にも、引き込まれ終始聞き入りました。

一部の『私たちの課題とマネジメントの展開』では、職場の環境と人間関係は保育者の負担感をもたらす、保育の質にも関係するようになり、さらには職務満足度の低さへとつながる現実があるとのことでした。そのため、管理職は資質シートを作成し、自己分析を行いその結果に基づき、組織として人材をどうマネジメントしていくのかを、様々な視点から計画を立てて実践していく方法を学びました。

二部の『職員理解と評価の実際』では、年度初めには、職員が目標を設定し、目標管理シートに記入していくことで期首面談時に管理者から職員へアドバイスができ、今後の方向性が見出せます。そして、期末面談時には一年の評価と反省の話し合いの場を持ち、今後の保育の方向性が定まっていく為、活用していくことを勧めていただきました。また、保育者が年々経験

■報告者 穴吹認定こども園 南後 きみ子

を重ねていく中で、管理者として個々の個性を認め、成長の可能性を見出すような、見守りや助言の具体例を実践動画を交えて、細かく解説していただきました。

三部は『保育の専門家集団として』の内容で、教育・保育要領に関する幼児期に育つ非認知能力や幼児期に育ててほしい10の姿等、幼児教育の真髄を捉えた内容でした。また、管理・経営者としての感性と責任を企業経営者の視点で、常識や感覚から見直していき、自分の強みを生かした人材育成術を学びました。

今後は園の体質を見直し、感性と責任を持ちながら、職員の理解にも努めていきたいです。



8/21 保育夏季大学・午前 アスティとくしま

講演 「保育と防災 頻発する大雨災害に備える」
講師 徳島大学 特命教授 中野 晋氏

徳島県では、台風などにより大雨が降ることで洪水が起き、土砂災害警戒情報が度々発令される現状があります。また、徳島県内の保育施設は、津波や洪水などによる浸水被害想定区域にある割合が約7割と全国で1位にあたるそうです。

今回の「保育と防災」の講義はとても身近に感じ、改めて災害への防災意識が高まりました。

大雨災害に備えるために①ハザードマップを活用すること②雨量と水位情報を活用すること③分かりやすい避難確保計画が必要であること、そして、その重要性を分かりやすく教えて頂きました。

また、保育中に大雨災害が起こり実際に避難した事例や、被災後に保育を継続・再開した事例を聞くことで、課題が多くあることを知り、課題解決に向けての

■報告者 わじきこども園 水口 鈴子

取り組みを考える良い機会を与えて頂いたと思います。

園全体で防災意識を高め、災害から目の前の子ども達の命を守ることができるよう、努力していきたいと思います。



8/21 保育夏季大学・午後 アスティとくしま

講演 「保育の質の向上 こどもまんなか社会の実現」
講師 学習院大学 教授 秋田 喜代美氏

保育の質の向上、子どもの主体性について学びました。

保育場面の動画やたくさんの写真を見せていただきました。そこには園児たちが様々なものやいのちと出会う中で、自分なりに試したり、失敗したり、何度も挑戦したり繰り返し探求する姿がみられました。園児同士の言葉のやりとりやつづやきを保育者が尊重し、園児たちが主体的に遊び、没頭する姿もみられました。子どもの心の動きや活動の変化をコメントや写真

■報告者 土成中央認定こども園 吉尾 愛美

を用いてドキュメンテーションとして記録し、掲示することで保育者はミーティングの素材になったり、子どもは保育者や友達と対話しながら振り返ったりすることが分かりました。自分の保育は子どもの主体性を引き出し、活かしているのか改めて考える良い機会となりました。

今後も子どもが安心した環境の中で、一人一人が主体的に、様々なものやいのちに関わったり、探求したりできるような保育を目指していきたいです。



■報告者 平島こどもセンター 野元 みどり

今の社会は、物や情報にあふれ私たちの生活は便利で豊かになりましたが、以前より、子どもたちが様々なことを体験する機会は少なくなってきています。一生のうちで、6歳までに脳の回路が87%開かれるといわれ、一日の大半を過ごす保育所での役割が特に大切であるとの話でした。そのキーワードとなるのは自然であり、自然の中で感情を揺さぶられる体験を重ねることで、群れて遊び、共に育ち合う経験が重要だということ学びました。

講義で紹介された園の映像には、五感を通し、自然素材に触れ、主体的に活動しながらたくましく育つ子どもたちの姿がありました。園庭には、既成の遊具や玩具はなく、土・水・木・石・植物・小動物などの自然物に思う存分関わり、夢中で遊び、創造していくことが結果として造形作品となっていました。このように遊び込んだ子どもは、心を開放して自由に絵を描き表現するようになるそうです。私たち保育者は、子どもたちが五感を通して心揺さぶられる体験ができるように保育環境を見直すとともに、子どもたちの発想や表現を大切にすることで感性が磨かれていくようにしたいと思います。



給食部

花しんばり子ども園 管理栄養士 藤田 美紀

花しんばり子ども園は、小松島市にある社会福祉法人和田島福祉会を母体とする認定子ども園であり、現在は0歳児から5歳児まで143名の子どもたちが毎日元気一杯に園生活を楽しんでいきます。

コロナ以前の行事・活動に戻りつつあり、それに伴って食育活動も皆で活動することが増え、私たち栄養士や調理員も基本的な感染対策をしっかりと行いながら、子どもたちに関わるようにしています。

給食やおやつには徳島県はもちろん、日本各地の郷土料理や郷土菓子、世界の料理を献立に取り入れて、楽しんでいます。47都道府県や全世界をコンプリートできるように頑張っています。

また和田島福祉会には当園以外に7つ姉妹園があります。それぞれの地域の特産品を、旬の時期に合わせて

て給食やおやつに取り入れています。例えば4月は藍住町の人参、5月は和田島町の釜揚げシラス、7月は小松島市の鱧、8月は阿波市の美～なす（翡翠ナス）、1月は松茂町のレンコンなどです。

毎月19日を「食育の日」として地域の特産品や旬の食材を使った料理を提供したり、食事マナーや栄養についての話をしたりしています。それ以外の日でも、クッキングをしたり、5歳児は毎日「食事バランスの手」を使って給食・おやつの栄養調べを行ったりしています。

これからも様々な食材に触れることによって、今まで知らなかったことに興味や関心を持ち、子どもたちの食べる意欲を引き出しながら、安全で美味しい給食やおやつを提供していきたいと思っています。

毎日、5本の指で確かめてみましょう!

お父さん指は「ごはん・パン」食べたら体もり力が出るよ!

お母さん指は「野菜」食べたら体の調子が整うよ!

お兄さん指は「肉・魚・卵・大豆」食べたら体が大きくなるよ!

お姉さん指は「くだもの」食べたらお肌がすべすべになるよ!

赤ちゃん指は「牛乳・ヨーグルト・チーズ」カルシウムたっぷり。食べたら骨や歯がしやうぶになるよ!

食事バランスの手

とくしま食育推進研究会



献立紹介

(3歳以上児1人分)

はもの天ぷら

材料

はも: 50g
塩・こしょう: 少々

◆ 小麦粉: 10g
卵: 6g
水: 適量

油: 適量

★ しょうゆ: 1g
みりん: 1g
だし汁: 2g
でんぷん: 1g

作り方

- ① はもは食べやすい大きさに切り、塩・こしょうをする。
- ② ◆を混ぜ合わせて天ぷら衣を作り、はもにつけて揚げる。
- ③ ★を沸かして天つゆを作る。
- ④ 揚げたはもに天つゆをかけて完成。

令和5年度
徳島県保育事業連合会 表彰受賞者
おめでとうございます

徳島市（13名）

No.	氏名	公私	保育施設名	職名
1	井上 知佳	公立	徳島市立 明善保育所	主査
2	脇坂 陽美	私立	前川乳児保育園	保育士
3	中山 瑞宝	私立	さくら保育園	副主任保育士
4	住友 由香利	私立	なかよし保育園	保育士
5	松下 典子	私立	なかよし保育園	保育士
6	中田 陽子	私立	四国大学附属保育所	主任保育士
7	三井 弘子	私立	四国大学附属保育所	副主任保育士
8	中東 友希	私立	助任なかよし認定こども園	調理師
9	新織 直美	私立	四国大学附属西富田こども園	主幹保育教諭
10	前田 由紀子	私立	四国大学附属西富田こども園	主幹保育教諭
11	多田 裕美	私立	四国大学附属西富田こども園	副園長兼教頭
12	中尾 奈緒子	私立	四国大学附属西富田こども園	指導保育教諭
13	森 彩加	私立	ソーレ保育園 蔵本園	保育士

小松島市・勝浦（3名）

1	只平 由貴子	公立	小松島市立 横須保育所	副所長
2	小泉 記代美	公立	小松島市立 横須保育所	調理員
3	福富 いくえ枝	公立	小松島市立 県前保育所	副所長

中央（1名）

1	真田 佳代子	私立	あいあい保育園	主任保育士
---	--------	----	---------	-------



各研修会場に設置しています。ご協力お願いいたします。

徳島県保育事業連合会の
ホームページはこちらの
QRコードからご覧いた
だけます。

